

視覚障がいについて知ろう



視覚障がいとは…

視力、視野など「見る」機能についての障がいです。

障がいの程度や状態、生活上の不自由さは人によって様々です。

視覚障がいの特性は？

● 全盲～まったく見えない

● 弱視(ロービジョン)～見えにくい

文字の拡大や視覚補助具などを使用し、保有する視力を活用できる状態です。視力が低い状態のほかに、見える範囲が狭い、光をまぶしく感じる、特定の色が分かりにくい、明るいとこではよく見えるのに暗いところでは見えにくくなる状態も含まれます。

こんなことに困っています…

● 慣れていない場所を歩いたり、電車やバスなどの公共交通機関で移動すること。

● 様々な文字の読み書きをすること。

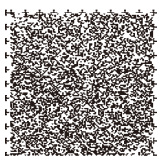
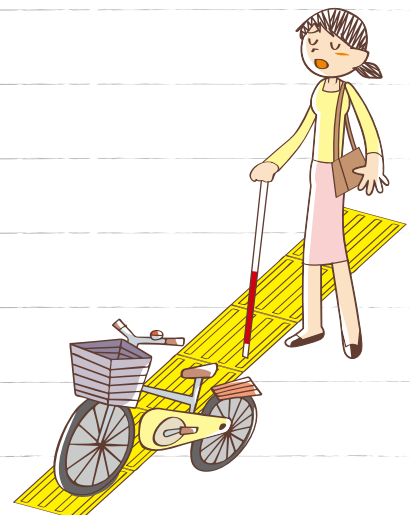
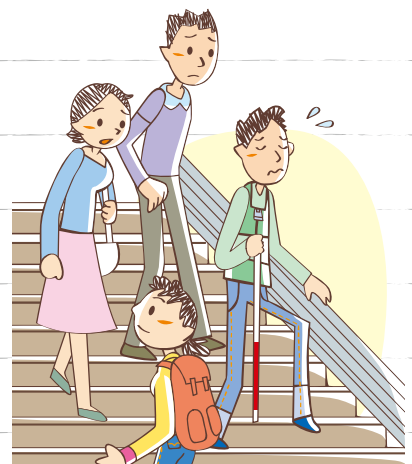
● 人の視線や表情が理解できず、コミュニケーションに苦労します。

● 点字ブロックの上に自転車などの物が置かれていると困ります。

● 白杖で検知できない障害物は、危険に気付かないことがあります。

● 音声や手で触れることなどにより、情報を得ています。

視覚障がいのある全ての方が点字を読めるとは限りません。



《音声コード》

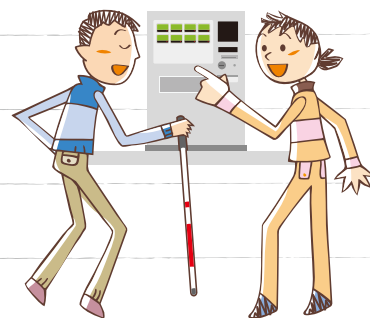
リかい 理解してほしいこと

◆ はな 話しかけるときには

なに こま ぜんぼう なに て つだ ひつよう
何か困っていたら、前方から「何かお手伝いが必要ですか」
こえ か
と声を掛けてください。

きづ かた じょうわん かる ふ
もし気付かないようでしたら、肩や上腕に軽く触れ、もう
いちど こえ か
一度声を掛けてください。

また、声を掛ける際には名乗るようにしてください。



◆ せつめい ぐたいてき 説明は具体的に

「あれ」、「その」、「こっち」など、あいまいな言葉では分
かりません。「みぎ」、「ひだり」、「まえ」、「うしろ」、「ほ
メートルくらい」など具体的に説明しましょう。

えき せ ほうこう よ
「駅を背にして」など方向をはっきりさせると良いでしょう。



◆ まち なか 街の中では

はくじょう もうどうけん りよう たんどく いどう かた てんじ うえ
白杖や盲導犬を利用して単独で移動されている方もいますので、点字ブロックの上に
じてんしゃ もの お
自転車などの物を置かないようにしましょう。

ある きげん
歩きスマホも危険ですので、しないようにしましょう。

はくじょう ずじょう ていど かか
白杖を頭上50センチメートル程度に掲げてSOSシグナ
ルを示している視覚に障がいのある方を見かけたら、進んで
こえ こま き
声をかけ、困っていることなどを聞き、サポートしてくださ

い。

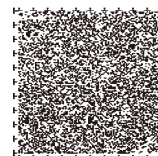


① えき 駅のホームでは

きげん かん こえ か あんぜん いち ゆうどう こえ か さい
危険だと感じたら声を掛け、安全な位置まで誘導します。また、声を掛ける際は
はくじょう かた と しかく しょう かた み すす
「白杖の方、止まって！」など、視覚障がいのある方が自分のことだと分かるように
よ
呼びかけましょう。

② おうだん ほどう 横断歩道では

おんきようしき しんごうき こうさてん おうだん かのう わた
音響式信号機のない交差点などでは、横断可能か、渡るタイミングを
つた あんしん わた
伝えることで、安心して渡ることができます。



おんせい
《音声コード》